

昭和大学附属烏山病院だより

あおぞら

〔発行責任者〕病 院 長 岩波 明
〔編集責任者〕広報委員長 常岡 俊昭
〔住所〕〒157-8577 東京都世田谷区北烏山6-11-11
〔電話〕03-3300-5231(代表)

第 1 7 3 号

〔2022年1月31日発〕

新年のご挨拶に代えて

看護部次長 池田 勝之

またしても、新しい年を迎えて、すでに時間が過ぎてしまいましたが、本年も、よろしくお願い致します。

「 昨年、世界中が、新型コロナウイルス感染症にふり回された1年でした。 」

実は、この文章は、1年前の「あおぞら」の書き出しと全く同じで、まさか、あの時には、この状況がそのまま続いて、さらに厳しさを増しているなどとは夢にも思っていませんでした。昨年の夏、何とか、開催することができた東京オリンピックには、当院からも、2名の看護師がボランティア医療スタッフとして参加しましたが、原則、無観客で、世紀の祭典としては少し残念なものになってしまいました。しかし、そんな中でも、多くの若いメダリストが誕生し、彼ら、彼女らの多くが、そのインタビューで、真っ先に、こんな状況でオリンピックの開催に尽力してくれた多くの人たちへの感謝を述べていたのが、つよく印象に残っています。そして、現在、北京で冬のオリンピックが開催されています。オミクロン株の大流行で、またしても無観客となっています。しばらくのあいだ、この感染状況は続くものと思いますが、みなさまにおかれましては、くれぐれもご自愛下さいませよう。

当院においても、いま、日本中の医療現場同様、職員や患者さまの中で、新型コロナウイルスの陽性件数が増えています。全職員をあげて、その対応に注力していますが、患者さま、ご家族に対しても、お散歩や外出泊、面会などで、入院生活に多大なご不便をおかけしており、改めて、お詫びを申し上げるとともに、引き続き、感染防止へのご理解・ご協力をお願い致します。

併せて、この1年間、当院にも、多くの医療者支援を賜りました。お弁当やピザのデリバリー、のど飴、スポーツ飲料、サプリメントに、化粧品まで。行政やジャニーズ事務所のスマイルプロジェクトからは、マスクやガウンなどの感染防護具や消毒剤などが届けられています。この場を借りて、改めて、お礼を伝えられればと思います。応援、ありがとうございました。おそらく、このコロナ禍の2年間、厳しい環境に置かれ、辛い思いをしているのは医療現場だけではないはずです。そうした方々からの支援を胸に、今しばらく、病院をあげて、この困難に立ち向かっていきたいと思っています。よろしくお願い致します。

家族教室

昭和大学医学部精神医学講座 講師 常岡 俊昭

コロナで先が見えない中ですが、お元気でしょうか？コロナ対策で右往左往して、その他の事がおろそかになったりはしていないでしょうか？鳥山病院でも「この時期はコロナ対策に注力する方が良いのでは」という意見も出ましたが、各部署で話し合いのうえ、「この時期だからこそ繋がりを切らない事が大切だ」と言う意見が多く出て、今月まで継続できています。参加家族も増え続けていて、今年の1月には20人を超える家族に参加いただき、時間が既定の2時間では終わらずに運営者としては嬉しい悲鳴となっています。

当院での家族教室は、ZOOMを使った完全オンラインである特徴を活かした、カメラはOFF、名前もあだ名で完全匿名性が保たれているのが特徴です。スタッフも参加者が誰の家族なのか分かりません。簡単な自己紹介（あだ名や期待していることなど。スキップも可）の後に、医療者から簡単なレクチャーを行い、後半の半分以上の時間を各参加者が対等な立場での感想や意見交換を行っています。毎回、4・5名の当事者に参加を依頼して、当事者の生の声をそのまま話してもらっています。完全なアドリブなので、時に医療者がはっとする意見やレクチャーの内容を真っ向から「自分はそうは思わない」と反論してもらう事もあります。また運営スタッフも「医療者」としての顔だけでなく「親」「子供」など家族の中の役割を持つ個人として参加している点も大きな特徴です。話題も下記のように答えの出ないものにそれぞれが意見を持ち寄るという形を取り、スタッフも常に正しい事を答える、というプレッシャーから解放され、対等な立場で悩み考えて感想を話して行きます。時には僕たちが家族に慰めてもらう事や教えてもらう事もあり、運営スタッフにとっても素の自分を出すことができる安全な場となっています。

当院入院患者さんの家族を主対象としていますが、趣旨に賛同いただける方には参加して頂いています。病名や当事者との距離に関わらず、家族関係が健康的でなく悩んでいる方は一度、聞くだけでも参加してもらえたらと思っています。運営スタッフ一同、新たな仲間の参加を楽しみにしています。

毎月第4木曜日 19時～21時で行っています。（たまに変更あり）興味を持って頂けた方は k-kouhou@ofc.showa-u.ac.jp に連絡頂ければと思います。

	2021年度 家族教室 題材
4月	医療が頼りにならないとき～
5月	家族機能が死んだとき～
6月	私はわたし～家族だって楽しい生活を
7月	秘密？共有？病気を話題にするとき
8月	病院ではなかなか聞けない薬のお話
9月	両想いになりたい～さよなら片思い
10月	当事者から家族へのお願い～家族との距離感
11月	語りの力
12月	うちの家族は何点？
1月	疲れていると言ってもいいですか



B4 病棟の取組み

B4 病棟 師長 坂内 めぐみ

B4 病棟は慢性期の閉鎖病棟です。現在入院中の 6～7 割の患者さんが何らかの依存症の方です。依存症治療に不可欠なことは「外とのつながり」です。そのため、入院中から、自助グループへの参加を外出という形で繰り返し、その間に薬物療法の調整や社会環境を整えていく必要があります。新型コロナウイルスが蔓延するようになってから、自助グループもリモート開催など参加の手段が増えました。また、リモート開催に参加ができるように、携帯電話の自主管理を推進し、病院の運用変更も行いました。そんな中で新年を迎え、感染力が強い「オミクロン株」が流行していききました。感染防止のために、患者さんが社会の場へ出向く機会が再び減らすことになりました。また、疑わしい患者さんがいる時には、長袖エプロン・手袋・N95 マスクと感染対策を強化した見慣れない姿のスタッフに遭遇したりと、落ち着かない入院環境となっています。そんな環境でも、「看護師さんが一番大変だね」と優しく声をかけてくれる方もいて、スタッフが救われる場面もあります。新型コロナウイルス感染は今後どうなっていくのかはわかりませんが、患者さんと共に試行錯誤しながら、この社会へ復帰(退院)できるように尽力していきたいと思います。

「臨床検査技師」

臨床病理検査室 責任者 恩地 由美

「臨床検査技師って何する人？」そんな状況からこの新型コロナウイルスの話題の中、世間に名前が知られるようになりました。

鳥山病院にも臨床検査技師がおります。患者様から見ると「心電図のお姉さん」のイメージでしょうか。そのお姉さんが「臨床検査技師」なんです。検査室は中央棟地下 1 階、外来の下階にあります。

病院 2 階の渡り廊下にて機械をガラガラと押しながら歩いているのも実は検査技師です。

心電図だけでなく脳波や超音波検査、テレビで見るようなコロナ検査、外来や病棟で採血された血液の検査もここで行われています。治験の仕事も検査技師が関わっています。

検査室には、5 名の女性スタッフがいてそれぞれ担当の業務をしています。

小さな検査室ですが、小さいからこそ出来る事が沢山あります。

医師やコメディカルとの連携も取りやすく状況も把握し易いため、より早く正確な結果を発信することが可能です。

毎朝、挨拶してくれる患者様に会わなくなったりすると皆で心配したりもします。マスクを外して「おはよう！」といえる日まで、スタッフ全員で頑張っています。

デイケア活動 大人の作法

Mさん

デイケアで私の一番のお気に入りのプログラムは、木曜午前の「大人の作法」です。皆で困りごとや解決したいこと、深めたいことについて挙げて、自分たちでテーマを決めます。毎回テーマに沿って皆で意見を出し合いディスカッション形式で進めていきます。テーマは様々で、人間関係のことや自己理解について、症状の特性からくる困りごとについてなど多岐に渡ります。今週は、「方向感覚、道に迷わない方法」について話し合いました。皆で困りごとあるあるを挙げたあと、それぞれが普段工夫していることを挙げます。色々な参加者の意見を聞いていると、「あるある」「わかる」という同じ悩みを共感できる話題や、そんなアイデアがあったのかという参考になる話題や、こだわりが光るマニアックすぎて自分の知らなかったディープな面白い話題など、多様な観点から一つのテーマについて深めることができます。参加していてとても楽しいです。



総合サポートセンター

～受診・入院のご相談～

受付：月曜日～金曜日・8時30分～17時

土曜日 8時30分～13時

電話：月曜日～金曜日 03-3300-5329

土曜日 03-3300-5231

◎初診受付：月曜日～土曜日・8時30分～11時

◎休診日：日曜日・本学創立記念日・年末年始

《1月》 入院(前月) 外来(前月)

◆延患者数 8,505(8,886) 5,160(5,803)

◇一日平均患者数 274.4(286.6) 224.3(241.8)

◆診療実日数 31(31) 23(24)

広報委員会では、皆様のご意見ご感想をお待ちしております。連絡先は k-kouhou@ofc.showa-u.ac.jp となります。



【編集後記】

日中は春のような暖かい日差しを感じますが、まだまだ寒さ厳しい季節、皆様いかがお過ごしでしょうか？黄色の蠟梅（ロウバイ）の花の、ほのかな香りから、春到来をひっそりと告げる、梅の季節がやってきましたね。植物好きな私としては、嬉しい季節の半面、花粉症も到来し、文明の力（薬）の強力なサポートを借りながら、日々過ごしています。皆様の自分サポートアイテムは何ですか？これを持っていると心強い、気分が上がる、癒される等々、自分サポートアイテムを増やすことも今は特に大切と思っています。コロナ感染が収まらない昨今、身近に迫る感染症に様々な気持ちを抱き、お疲れの方も多いのではと思います。早く皆様に心穏やかな日が、訪れますように。どうぞ皆様、引き続き、ご自愛ください。

（広報委員 武藤）